

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

| | | | | | |
|-----------|-------------------------|--------|------------|-----------|--------------|
| 団体名 | 亀岡市役所 | | | 代表者名 | 桂川 孝裕 |
| 担当者部署(属性) | 情シス担当 | 担当者部署名 | 政策企画部情報政策課 | 連絡先電話番号 | 0771-55-9454 |
| 担当者役職 | 係長 | 担当者氏名 | 中川 智嗣 | 連絡先E-mail | |
| 住所 | 621-8501 京都府亀岡市安町野々神8番地 | | | | |

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

| | | | |
|-------|--|---------|-----------|
| 団体名 | | 連絡先部署 | |
| 担当者氏名 | | 連絡先電話番号 | 連絡先E-mail |

1-3. 支援を求める内容

| | | | |
|----------|---|-----|------------------|
| 支援方法 | 職員向け啓発・研修（単独） | 事業名 | 自治体DXの（DX人材育成）推進 |
| 概要 | 自治体DX推進の中核を担う課長級職員を対象としたDX研修を実施し、DX推進に必要なマインドや知識を修得させることで人材育成を図る。この研修の企画及びプログラム内容に助言をいただきたい。加えて研修講師をお願いしたい。 | | |
| 支援を求める分野 | 人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成） | | |

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

| | | | | | |
|----------------|---------------|----------------------|-----------|---------------|----------|
| 2-1. 対応日・時間 | 期日・支援内容の変更あり | 受付番号 | 変更後の派遣日 | 変更後に実施した支援内容 | 実地/オンライン |
| | 有 | 768 | 令和7年12月8日 | 支援・助言&フォローアップ | オンライン |
| | 派遣日予定日（申請書より） | 支援内容（申請書より） | 開始時刻 | 終了時刻 | 内休憩時間（分） |
| | 令和7年12月5日 | 支援・助言&フォローアップ(オンライン) | 9時00分 | 10時50分 | |
| | | | | 活動時間（分） | 110 |
| 2-2. 派遣場所 | 会場名 | オンライン | | 最寄駅 | オンライン |
| | 所在地 | オンライン | | 最寄駅からの交通手段 | オンライン |

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

| | |
|-----------------------------|---|
| アドバイザー | 由比 良雄 |
| 評価 | 大変良い |
| 上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に） | 本市の現状について、本市で取りまとめたアンケートを基にさらに独自に分析し、丁寧にヒアリングをいただきました。その中で豊富な知見をもとに、こちらが目的とする内容をふまえた研修等への今後の助言をいただいた。研修内容以外でも今後の本市におけるDX推進に関する有用なアドバイスを多くいただいた。 |
| アドバイザーへの要望事項 | データや体験に基づく内容が大変参考になりました。また、研修時の反応やリアクションも踏まえて本市のデジタル人材への感想をいただけて有用だった。また、今後の本市のDX推進に対して忌憚のないご意見を今後も頂けたらと思います。 |

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

| | | | |
|--|--|-------|----|
| 4-1. 支援を受けた対象者 | 属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】 | 合計人数 | 3人 |
| | 属性 | 自治体職員 | 住民 |
| | 人数 | 3 | |
| 4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果 | | | |
| 事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい） | 令和3年度からDX推進に取り組み、DX推進員を中心に研修などを実施してきましたが、令和7年3月に実施した職員意識調査では、デジタルに苦手意識を持つ職員が大半となっています。特に事業推進の中軸となる課長級職員に苦手意識を持つ職員が多く、先例重視、紙至上主義といったDX推進の弊害となっています。 | | |
| 支援により目指す成果（具体的にご記入下さい） | 課長級職員を対象にDX研修を実施いただき、DXの必要性を認識し、自分ごととしてDXに取り組める組織内職員を増加させること。（デジタルツールを活用した業務改善や新たなサービス提供が自発的に行われる数が増加すること） | | |

